

# くもべラボ 2019

くもべラボ・杉山ゼミ  
(杉山 武志)

## 1. 「里山工房くもべ」×「くもべラボ」

くもべラボは、杉山ゼミが 2015 年度より取り組んでいるプロジェクトである。閉校になった丹波篠山市旧雲部小学校の校舎を活用して進められているコミュニティビジネス「里山工房くもべ」の取り組みを、研究調査と実践活動の両面から支援している。丹波篠山市では、ユネスコ創造都市ネットワーク（クラフト部門）に加盟し、創造都市政策が推進されてきている。しかし、実体としては、小学校の統合や閉校、人口減少に伴う地域格差が生じている現状がある。筆者の関心は、文化・芸術を活かすという華やかな政策の舞台裏にある（地域）コミュニティの諸主体の葛藤、悩み、努力を丹念に見つめ直し、少しでも大学の教育研究の立場から、現場の方々と笑顔を分かち合えるような支援を手がけることにある。プロジェクトを開始して 5 年目を迎えたが、杉山ゼミにおける、コミュニティ研究を体験する最重要プロジェクトに位置づけている。

## 2. 地域おこし協力隊活動へのコミットメント

今年度の本報告書では簡潔に、2019 年度の取り組みを記録しておきたい。2019 年度の記録として、いの一番に記述しておきたいことは、杉山ゼミ生の花谷和志さん〔専門：政治地理学〕が 2019 年 4 月より丹波篠山市地域おこし協力隊（半学半域型）に着任したことである。環境人間学研究科のマスターコースの院生として研究活動を進める一方で、里山工房くもべにあるコミュニティ・カフェの“マスター”としても活躍している。

もちろん花谷さんの活動は、カフェ“マスター”としての職務のみに留まらない。里山工房くもべが実施するコミュニティ活性化事業の企画・調整・広報活動、里山工房くもべを事務局として事業を展開する丹波篠山市東部 6 地区協議会の事業の企画・調整・広報活動、兵庫県内外のコミュニティビジネスを手がける諸団体の視察受け入れおよび調整、学生たちのフィールドワーク実施にかかる調整・手配など多岐にわたる。そのうえで並行して、花谷さんの研究分野である政治地理学から、丹波篠山市東部 6 地区の現実の声に耳を傾けて、自らの研究および斯学へのフィードバックを試みている。

## 3. 『kumobe 里山ビジョン 2030』

さて、花谷さんの前任の地域おこし協力隊であった石坂将一さん〔専門：経済地理学〕の活動成果にも触れておきたい。杉山ゼミ生たちとの協働により、前回の『研究活動・報告集』での報告には間にあわなかったが、2019 年 3 月 31 日に、ブックレット『kumobe 里山ビジョン 2030』が発行された（図 1）。このブックレットは、くもべまちづくり協議会、里山工房くもべをはじめとした地元のみなさん、日頃から雲部にかかわるアクター、学識経験者のみなさんとともに、2030 年の雲部地区のビジョンを語り合うことを目的とされている。2019 年度のくもべラボも、当該ビジョンを羅針盤に、雲部地区での地域連携活動を進めている。そのビジョンのなかで、様々な執筆者们から口をそろえて発せられたメッセージは、雲部地区の温かみへの魅力にあった。

次年度もくもべラボでは、里山工房くもべをはじめ、雲部地区、丹波篠山市東部 6 地区のみなさんと学界の立場から連携を深め、温かみのあるコミュニティの創造に一層、寄与したい。



図 1：『kumobe 里山ビジョン 2030』表紙  
(出所) 石坂将一編・兵庫県立大学環境人間学部  
人文地理学研究室協力（2019）